

平成26年度 第2回美術館セミナー 報告

- 1 日時 平成26年8月12日（火） 午前10時から午後3時30分まで
- 2 場所 茨城県近代美術館 講堂
- 3 参加者 県内の幼・小・中・高等学校の教員，学生，一般の方（他の美術館，ボランティア等）

夏の研修会としてご利用いただいた市町村もあり，多くの方にご参加いただきました。

4 活動内容

- 10:00～10:05 (1) オリエンテーション
- 10:05～10:15 (2) 美術館と学校との連携事業紹介
- 10:15～10:25 (3) 企画展「美術の冒険 国立国際美術館コレクション展」見所紹介
当館主任学芸員：井野功一



国立国際美術館の所蔵作品の中から，セザンヌ，ピカソらの作品を導入とし，戦後から現代までの83作品を「美術の冒険」と題して展示していることなどを分かりやすく紹介しました。

- 10:30～12:00 (4) 美術教育講演会
「鑑賞教育の必要性と比較鑑賞の有効性」
講師：泉谷淑夫先生（岡山大学大学院教育学研究科 教授，
一陽会運営委員 岡山県美術展審査員）



泉谷先生が制作した作品紹介から始まり，様々な見方，視点の捉え方についてお話しいただいた。泉谷先生の話は非常に興味深く，参加者からも「良かった。」という声が多かった。

12:00～13:00 昼食・休憩（展覧会鑑賞）

13:00～15:00 (5) 演習

「比較鑑賞・マグリットを評価する」

講師：泉谷淑夫先生（岡山大学大学院教育学研究科 教授，
一陽会運営委員 岡山県美術展審査員）



午前中の講話をもとに、午後は、比較鑑賞に関する演習を行った。2つの絵画のどちらがよいと思うか、どの部分をもとにそう思うのか、などをワークシートに記入した。記入したことをもとに参加者から意見をもらい、それぞれの考えをお互いに共有した。

【参加者から】（アンケートより）

- ・ 泉谷先生の話が良かった。38人
- ・ 比較鑑賞の仕方がよくわかった。23人
- ・ 演習（ワークショップ）が面白かった。14人
- ・ 今後の授業の参考になった。15人
- ・ 内容が良かった。10人
- ・ 鑑賞の大切さや方法などが分かってよかった。7人
- ・ マグリットの絵画を使用したのがよかった。3人
- ・ 鑑賞中心の内容や美術講演会は、今後行ってほしい。1人
- ・ 美術館の作品鑑賞と鑑賞教育研修があわせてできることが魅力。1人
- ・ 鑑賞が興味深いことに気付いたが、素人には難しかった。1人
- ・ 泉谷先生が、教員と制作を両立してこられたという話を聞き、同じ立場として、たいへん勇気づけられた。1人
- ・ 泉谷先生の展覧会を見てみたい。1人
- ・ 泉谷先生の作品グッズを置いてほしい。1人